

営農情報



農作業安全のポイント

春の農作業を前に準備を進める時期です。機械作業を安全に行うため、昨年の作業の振り返りや農業機械の点検を通じて、今年も安全に作業を進めましょう。すぐに実践できるポイントをまとめました。

ポイント1 取扱説明書を読んでから使用しよう

農業機械は、年中は使わないことが多いので、使用方法を忘れがちです。機能を十分に使いこなすためにも、機械を使用する前には、必ず取扱説明書を読みましよう。頻繁に読む部分をコピーして機械にぶら下げておくのも有効です。

ポイント2 危険を予測しよう

他人のことはよく気付く反面、自分のことにはなかなか気付かないものです。

そこで左記の①②について、写真を見て思い当たる点を挙げてみましょう。解答例のほかにも色々考えてみましょう。

① 注意すべき点

解答例…点検作業時には、巻き込み事故などの防止のため、必ずエンジンを止めて行います。

複数人数で作業を行う

ときには他の人の動きにも注意を払います。

② 改善すべき点

解答例…煙草を吸いながら作業をすることは引火の危険性もあり、避けたいものです。けが防止のため、状況によって手袋や保護メガネを着用します。

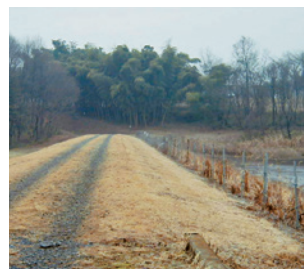


ポイント3 路肩に気をつけよう

全国の農業機械の転倒、転落による死亡事故は、年間90〜120件で、そのほとんどがほ場や農道で発生しています。

その安全対策として、

1. 路肩が分かるように、草刈りをしたり、目印を立てたりします。
2. 前後輪の内輪差を考慮して、カーブを曲がります。
3. ほ場の出入口の傾斜方向に対し平行に進入します。



路肩が分かるように常時草刈りを実施

ポイント4 反射シールで夕方の交通事故防止

秋から冬にかけて、夕方に暗くなるのが早くなります。事故を回避するため、互いの存在に早めに気付くことが重要です。残念ながら、歩行用機械は反射シールが元々ないものがあります。また、あっても泥で汚れたり、積載した荷物で隠れてしまうこともあります。

こうした事故防止対策として農業機械の後方、側方に反射シールを貼り付けます。



乗用トラクター側面に貼り付けた反射テープ



低速車マークを貼り付けたコンバイン